

党議員団の質問紹介



どの子にも豊かな保育を保障せよ

杉浦とも子 市議

大津市では、市内の公立・民間保育園が連携・協力しながら保育を進めており、公民間の格差を解消するために、民間の職員給与助成金が設けられ、保育の水準を維持・発展させてきました。ところが3歳児の保育士配置を20人に1人から15人に1人へ充実させる一方で、職員給与助成金を1/2に削減するとしました。

杉浦市議は、助成金の削減が保育士の確保に大きな影響が及ぶだけでなく、非正規の保育士が増えて保育の質の後退にもつながりかねないと指摘、削減の撤回を求めました。市当局は経費増大のためやむを得ないと答えましたが、子育て支援の拡充に逆行するものです。



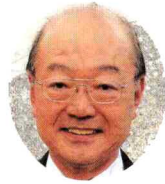
▲保育園の運営について話を聞く杉浦市議



戦闘服通勤は平和な市民生活になじまない

石黒かつ子 市議

陸上自衛隊大津駐屯地では、今年から戦闘服での通勤がはじまりました。急な知らせに地域住民は、「平和な町の中を非日常的な戦闘服姿で通勤することは市民に不安を与える」と中止を求めています。石黒市議は、災害等への迅速な対応と言うが自治体の要請を受けてから出動するので理由にならない。市民の不安に応じて中止を申し入れるべきと質しました。市長は「国民の生命と財産の確保という観点に合致する」と容認する答弁。軍隊は持たない戦争はしないという憲法の下で、戦闘服姿が日常の風景になることが当然でしょうか。憲法を遵守すべき市長としての見識が問われます。



市民に役立つ公営ガスの継続を

佐々木しょういち 市議

2013年度ガス事業予算で、近畿一安いガス料金の更なる値下げ、小中校のクーラー設置補助（13年度は国の交付金事業に振り替え）、道路占用料を市に支払う（市の財源が増える）など、150億円を超える内部留保をかかえるガス事業の利益の一部が利用者・市民に役立てられることになりました。ところが大津市は、このように多面的に市民生活に貢献できるガス事業の民営化を視野に入れて資産評価などの検討をしています。佐々木市議は、民営化の論拠はますます無くなったことを主張しましたが、当局は「検討中」としか答弁しませんでした。市民のガス事業を守って今後もがんばります。



残土処分場から基準上回る「鉛」などが検出

岸本のり子 市議

市民団体の調査によって、市内北部の残土処分場から環境基準を上回る鉛やヒ素が検出されました。市の土砂埋立規制条例の許可を受け行われており、岸本市議は、「現在の搬入元や処理業者による調査結果を示す証明書の提出だけでは安全性の確保は困難で、同条例の速やかな改正」を求めました。市は、「現行でも立ち入り調査はできる。また、状況変化を見て必要性があれば調査する」という答弁をしました。その後大津市の2度にわたる調査でも、環境基準を大幅に上回る鉛が検出されており、許可権を有する大津市の責任で環境の安全を確保すべきです。



▲北部砂埋立地付近を視察する岸本市議



きのせ明子 市議が出産

きのせ市議は、2月に男児を出産、母子ともに健康です。産休のため2月議会は欠席しましたが、現在復帰に向けて準備中です。

いじめ問題解決へ幅広い共同を

一昨年の10月に市内中学校の生徒が自らの命を絶つという衝撃的な事件からまもなく1年半になります。今年1月には市が設置した第三者調査委員会が、231ページにのぼる報告書を提出し、その中で深刻ないじめが原因であったことが明らかにされました。子どもや一部の先生がいじめと気づいていたのに、なぜこの様な事件を防ぐことができなかったのか、さらなる検証が求められています。

大津市議会では、今議会冒頭に「いじめ防止条例」を多数で可決しました。共産党議員団は、昨年11月のパブリックコメントで拙速な条例制定をすべきでないとする意見が多数であったこと。子どもや先生、保護者の意見などを反映させるべきであること。通報・相談の義務づけや内心に関わる規定がふさわしくないこと

などを指摘して現時点での条例制定に反対しました。子どもを守るための第三者機関を設置したり、学校で子どもの命を最優先にした取り組みを進め職員体制を充実させることなどは条例がなくとも直ちに取り組むべき問題です。

重大な人権の侵害であり将来にわたって傷を残す今日のいじめ問題の深刻さを認識し直すとともに、早い段階で発見して克服する過程で子どもの成長を実現させること、深刻な場合には命と安全を最優先させることなど、子どもの権利条約の精神で子どもも含めてこの問題への取り組みを考え、共同していくことが求められています。さらに、子どもをいじめに追いやる社会の現実を見つめ直し、その原因となっている競争的な教育制度や文化状況を改善するために力を合わせましょう。